

平成 24 年度 学校評価公表シート

学校法人 竹田学園
茶山台幼稚園

1.本園の教育目標

園と家庭との連絡を密にし、一人一人の子どもの心を大切に教育します。また、子ども達の意欲と自信につながるよう、優しく(愛情)、きびしく(教育・躾)、大切に(誠意)指導し自主性を育てます。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

常に変化していく社会の中で、幼児期にしかできない「今」を大切に。幼児教育の重要性を押さえ、保育で大切にしたいことを教職員全員が共通理解をし、「心の力」「学ぶ力」「体の力」を養う為に、茶山台幼稚園の教育目標を具体化し、取り組みます。

3.評価項目の達成及び取組状況

	評価項目	取り組み状況
一、 保育の 計画性	園の教育目標をふまえ、幼稚園教育要領を理解し、教育課程を編成する。	幼稚園教育要領をふまえ、各主任を中心に教育課程の再作成に取り組んでいる。又、保育所保育指針や小学校学習指導要領についても理解を深め、実践していけるように研修会に参加したり、学期毎に確認を行っている。
	指導計画は、幼児の発達に即して、一人ひとりの幼児が幼児期にふさわしい生活を展開し、必要な体験を得られるようにするために作成する。 また、幼児が主体的にかかわりたくなるような環境構成をする。	指導計画については、各年齢の“年間計画”“月間計画”から領域を書き出し、週案を作成し、日々の保育を振り返り、今の子ども達に必要な日案を作成する。
	保育についての反省や評価を適切に行い、改善を図る。	日々の保育日誌で、子ども達の成長や様子を確認しながら、記録をとり、反省や評価を心がける。

二、保育の在り方、幼児への対応	教職員全員が、園のすべての幼児について理解できるよう、さまざまな工夫をし、指導上配慮を必要とする幼児については、園の教職員全員で、共通理解をする。	職員会議や日々の談話の中で幼児の事や、保育の事について話し合い、共通理解に努め幼児に接することができるようにしている。
	園内に危険な箇所がないかどうか、危険な遊び方がないか、活動が年齢や能力に対して危険でないかなどを、常に観察する。	教職員で安全点検を行い、遊具・施設・設備の安全を確認し、改善の必要がある場合は、速やかに対処している。保育中は、保育者同士、協力し合って幼児に目を行き届かせている。自分のクラスだけでなく、常に全ての幼児の安全を意識するよう努めている。
	異年齢児交流を大切にする	体力面に加え、異年齢児交流を通じて子どもどうしの思いやり、いたわり、優しさをはぐくみ、心の面での成長を促した。
三、保護者への対応	保護者のニーズの把握に努め、迅速な対応を図ると共に幼稚園との信頼関係を構築する。	保護者との懇談会を実施するとともに、様々なニーズや意見に対して園からの情報発信を通じて、園の考え方を示した上で、改善すべきものは改善するよう取り組んできた。
	子どもの園生活に直接触れる機会を大切にする	多彩な行事や参観などを通じて、集団の中の我が子の成長を喜ぶ機会を作った。
四、地域との関わり	地域の催しに、積極的に参加し、交流を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7月には地域の、泉ヶ丘「なつ、ゆめ、まつり」に参加依頼があり、かわいい子ども達の参加に地域の方も喜ばれ地域活性化への協力できた。 ・ 最寄の泉ヶ丘駅からの依頼で絵画展示に協力し、地域の方々に幼稚園教育への理解を深めてもらった。 ・ 10月には地域・警察・消防主催の安全な町づくりフェスティバル参加し、毎日安全に暮らせることに感謝し、子どもが身につけるべき社会ルールについて知る機会とした。

	小学校との連携を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元の小学校の見学や、進学する小学校へは、指導要録を送付すると共に、一部の小学校では先生と年長組の担任とが直接話し合いの場をもつことができた
	教育の質の向上のため、自己課題をもって研修会や研究会に、すすんで参加する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の発達の姿をとらえるための各種研修会にも積極的に参加するように努めた。 ・ 自園に専門の音楽・絵画・体操の講師をお招きして研修会を実施している。必要があれば、その都度職員間で話し合いの場を設ける。
五、 研修と研究	幼稚園の情報を各所に公開している。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園の教育方針や日々の保育での取り組みの情報を発信するよう園だよりやホームページ又はブログで公開している。また、緊急連絡事項を保護者宛にメールにて一斉送信をする事により迅速かつ正確に伝え、情報提供をスムーズに行っている。
六、 情報の発信	子育て支援の充実を図り、子育てが楽しくなるよう応援する。	未就園児が親子で登園する日を設けたり、子育て相談を受けたり、夏休みも自由登園を設け、自由に登園できる環境を整えている。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

取り組むべき課題について、全教職員が共通理解し、それぞれ自己評価し、取り組み状況を話し合うことを通して、本園としての今後の課題を明確にすることができた。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
危機管理対策	今までも、定期的に不審者対応や火災など緊

(想定外のことも考えて訓練する)	<p>急時や災害時における避難訓練の実施をしているが、今後より一層訓練内容を充実させ、対応方法や各職員の役割分担の理解を深め、災害発生に備えていく。また、子ども自身が自分の命を自分で守れるよう考えて行動できるよう育む。</p>
<p>教員の資質向上</p>	<p>ティーム保育を実践していく。 “個人指導記録”を作成することで、一人ひとりの発達を深く観察し、目標到達のために援助していく。また、園内で実技研修を行い、技術のレベルアップを図る。また年齢による発達をよく理解し、個々の成長への繋がりを大切にできるよう研修を重ねる。</p>
<p>指導計画の編成</p>	<p>引き続き、幼稚園教育要領をふまえ、教育計画に加筆・訂正を加えつつ、園を取り巻く環境や子どもの実態に即した指導計画を目指していく。</p>

6. 学校関係者の評価

特に指摘すべき事項はなく、妥当であると認められる。

7. 財務状況

公認会計士による監査において、適正に運営されていると認められる。